第１回半田市男女共同参画審議会　議事録

開催日時	令和７年７月１５日（火）１０時～１２時
開催場所	半田市役所　会議室３０４
次　　第	１．あいさつ ２．委嘱状交付 ３．会長及び副会長の選任 ４．男女共同参画審議会について ５．報告 （１）みんなが輝くチャレンジプラン及び評価マニュアルについて （２）令和６年度みんなが輝くチャレンジプラン評価に係る意見・提言に対する対応状況について ６．議題 （１）令和６年度　みんなが輝くチャレンジプランの評価について ７．その他
出 席 者	会　長：末盛　慶 委　員：板倉恵美、岩浪房子、鈴木靖隆、岡戸秀一、斎藤由華、杣川智美、岩本佳大、榊原衣麻（欠席） 事務局：市民協働課長　渡辺富之、森幸、小坂優勢

議事録

１．あいさつ
２．委嘱状交付
新たに委嘱された４名に対し、委嘱状を机上配布にて交付に代えさせていただく。
委員全員の自己紹介
３．会長及び副会長の選任
板倉委員が末盛委員を会長に推薦し、委員全員が拍手にて承認。
末盛会長が板倉委員を副会長に推薦し、委員全員が拍手にて承認。
会長、副会長、就任あいさつ
４．男女共同参画審議会について
５．報告
（１）みんなが輝くチャレンジプラン及び評価マニュアルについて
（２）令和６年度みんなが輝くチャレンジプラン評価に係る意見・提言に対する対応状況について
６.議題
（１)令和６年度　みんなが輝くチャレンジプランの評価について
事務局より説明。

委員	多様性への理解の促進（１ページ）目標値が低いのではないか。
事務局	目標値はチャレンジプラン策定当時の委員の方と行政が議論し定めている。しかし１０年計画にはなるため、大きく社会が変わることも考慮し、中間目標を定め、評価し、その際目標値の見直しもあり得る。表は当初の目標値。
委員	目標値に見合った努力しかしないのではないか。
会長	決め方は色々あるが、正解はない。
委員	多くのことを企画・実行しているが、市民として知らないことが多かった。情報が届いていないため知識がある人しか参加をしていないのではないか。周

	知方法が課題。
事務局	周知に関してはあらゆるところに言える。参加したことがない方にどのように届けるか。
委員	子どもと過ごす週末、イベントがあれば参加をしたい。ただ、自分で見つけた情報だけでは興味があっても行動に移せないことが多い。 参加した人による口コミは信頼度が高く、知り合いからの誘いでは行きやすい。
委員	託児付のイベントだと若い世代が参加しやすい。託児のボランティアが減っているのか。
事務局	男女共同参画のイベントではターゲット層も子育て世代のため、託児は必要だと考えている。ただ人員確保の問題で全て受け入れられるとは限らない。
委員	子どもがいなかったら参加をしていないと感じるイベントもたくさんあった。子どもを楽しませるという理由で子連れの方が参加している場合も多い。防災分野の取組も大切。例えば防災キャンプでは子どもが興味のあるイベントに参加をすることで自然に知識が身に付く利点もある。また、知り合いから誘われたら行きやすい。
委員	大きなイベントだと参加しにくいと感じる方もいる。地域の小さな集まりの方が参加しやすいのではないか。
事務局	参加者から発信し、広げてもらう繋がりを期待したい。 一人では参加しにくいが、子どもがいることで参加しやすい。子供どもが興味を示しそうなイベントの中で仲間意識や知識も自然に付くと良い。
委員	体験型のイベントも参加しやすい。
委員	参加者の条件を限定する工夫や、仲間意識ができる組み立てがあるとより身近に感じ、参加するきっかけにもなる。
委員	企画側としては口コミが１番。１度参加した方との繋がりが大切。さらに、自分事として具体的にイメージしてもらい、捉えてもらえるテーマ設定。また、参加した方にはできれば主催者側にもなってもらいたい。身近なことが理想。令和６年度実施の市民交流センターで行われた「男女共同参画推進週間」は参加しづらい状況だった。多様性からテーマが「働く親を応援」だったことも対象者が絞られており、市として掲げているため仕方がないとは思ったが、誰しもが、という面では外れていると感じた。男女共同参画ではもう少し広いテーマ設定の方が良かった。また、期間を限定しない方が事業者としては手を挙げることができて良いのではないか。
事務局	今年はワークライフバランスをより具体的に考えた時、ライフに重点を置き、今は子育て中だが、一歩踏み出したいと考えている方をメインターゲットに設定した。現在働いていないとしても、次のステップを踏むために、経験者の方に話を聞く、という内容もあった。
委員	今年度初めて図書館に男女共同参画週間の掲示をしたが、足、目を止めてもらえて良かった。他の場所もあればさらに良いと思う。
委員	ＬＧＢＴＱを含め多くの具体的取組をしているが、「男女共同参画」という言葉が違和感。会議名称も「男女」とある。 また、施策の目標が漠然としているため、目標が意識づくりでは評価が「Ｂ」ばかりになっても仕方がない。「Ｂ」は評価を放棄しているのではないか。数値目標で明確にした方が評価もしやすい。数値目標を達成していれば「Ａ」、出来ていなければ「Ｃ」で良い。

委員	「Ａ」評価が付いた場合は完璧という意味か。
事務局	その評価に対し、さらに目標を上げ、次の目標に向かう。
委員	（３９ページ）「利用者なし」でいいのか。展開の報告だけでいいのか。市民は知らないことも多いため、イベントだけでなく、様々なサービスもＳＮＳを活用した広報をするとよい。市報状況だけではイメージできず、参加しづらいため、同じ方ばかりの参加になってしまうのではないか。
委員	多文化の教育現場では日本語教室も行っている中で、日本の文化やルールを守ることも子どもに伝えているが親にも言語以外の面も学んで欲しいと感じた。様々な活動があるのに参加者少ない。 教育現場では、新たな研修の追加は難しいが既存の集まりの中で研修を実施していくことはできる。
委員	参加者が少ないのであれば、時間帯、曜日を変更して開催してみてはどうか。
委員	勉強、という名目ではなく、お金をかけずにできる身近にできるイベント、講座運営はどうか。講師ではなく、交流という立ち位置でできないか。
委員	チラシ等に昨年度の参加者のコメントを入れるとイメージがしやすいのはないか。また、世代間交流（こども食堂）の数が増えていることに、便乗できないか。学生ボランティアの参加。
	以上